

研究計画書

ゼミ名	青木・稲田ゼミⅡ	チーム名	海は青いな、大き稲
タイトル	持続可能な小型観光と観光公害の防止		
テーマ群	d)国際経済 e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>2014-15 年にかけて中国からの爆買いを機に、インバウンド需要が増加した。同時に大型の観光地を中心に、騒音やごみの増加、景観の悪化や地域住民への迷惑など観光公害が起こった。ところが 20 年 2 月の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、インバウンド客が途絶してしまった。結果、日本の観光地は今までにない危機に瀕している。これに対して、政府は「Go To キャンペーン」という経済政策を打ち出した。感染拡大を防止しつつ旅行をお得に楽しめることから、多くの日本人が利用しているが、一方で有効なワクチンの完成が来年の後半とされているため、それまでは依然苦しい状況が続くことが予想される。</p> <p>「研究内容」</p> <p>私たちは今回のピンチを、持続可能なインバウンド戦略を練るうえで絶好のチャンスと考える。これまでの反省を踏まえ、(1)初めに京都の観光地を例として紹介する。(2)次にメディアによる過度な京都の知名度上昇、短時間観光や観光客の集中などによる観光公害について述べる。最後に今回のコロナ禍を機に、コロナ感染拡大を防止しつつ、京都の観光地の活性化を同時に達成するための政策、すなわち、(3)観光公害を防止する対策や小型観光地に観光客を分散させる対策を考える。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>持続可能な小型観光と観光公害を研究することで、観光公害を防止し観光地を守ることが出来る。また日本の観光の特徴として、観光客が大型観光地に集中してしまうことがあげられることから、小型観光地を活性化させることで観光客を分散させ、コロナ禍でも感染症の拡大を防止しつつ、観光地を持続可能にすることが期待される。</p>		